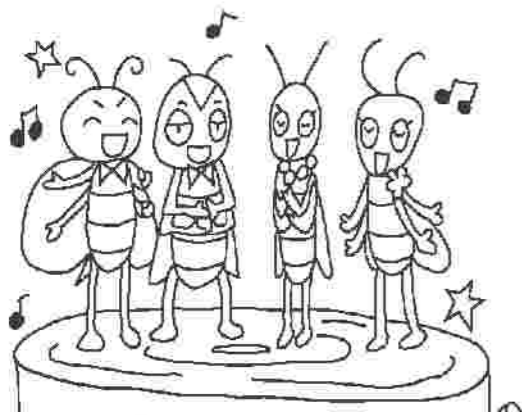


むしの音コンサート特集



好きな色に
ぬってネ!

9月23日、合唱団ショコラは2回目のホールコンサートを行いました。「ショコラ通信」では全団員に感想・意見を募り9名の方から寄せられました。友情出演して下さった新都心女声合唱団のメンバーからも寄稿していただきました。特集号が、今後へ向けてショコラの新たな地平を拓く参考になればと思います。

(団員は原稿到着順に掲載)

K'mio talks

普段の練習から暗譜を

「むしの音コンサート」、お疲れ様でした。今回の私の中でのテーマは、「ア・カペラ」と「暗譜」でした。そして私的にはいずれも成功したと思います。ア・カペラの曲をする事で、ハーモニーやアンサンブル技術が上達しました。それに加え、暗譜したことで表現力もアップしました。皆さんも終えてみてその様に思われたのではないのでしょうか。楽譜を見すぎると自分の世界に閉じこもってしまい、周りの音が聞こえなくなる、指揮者の意図が伝わりにくくなる、という弊害があり、正直言ってショコラはちょっとその傾向が強かったのですが、今回の演奏会で多少緩和されたのではないかと、思います。しかしこれも「継続は力」ですので、次回以降も積極的にア・カペラ、暗譜の曲を増やしていこうと思います。普段の練習から暗譜をしていく様に心がけていきましょう!

(Noboru Kamio)

新都心女声合唱団

井元 博美

皆様、むしの音コンサートお疲れ様でした! どんぐりコンサートで懲りずに今年もジョイントさせていただきました。ありがとうございます。

コンサート名に季語がついているってすてきですね。女性陣のお揃いのドレスも美しく、ショコラさんらしい愛に溢れた演奏で日本語の美しさと共に楽しませていただきました。

美苗先生も無事出産を経てパワーアップして戻ってこられるとのこと、次回の演奏会を楽しみにしています。

後日、みなさまの佐々木団長から腕の振りが甘い! とのご指導をいただきましたので今後に活かしていきたいと思います(いつ?)

江崎 千春(ソプラノ)

小久保武子(ソプラノ)

「合唱団ショコラ」としては2回目となるホールコンサートですが、私は初めての経験でした。

チャリティコンサートとは違う、緊張感、意気込みもありました。猛暑の中、蝉の声に励まされ、いつしか虫の声にも。なんとか頑張ろうと必死でした。当日、朝まで...。舞台は素晴らしかった。でも、怖いものでした。雨の中、聴きにきて下さる方の評価は厳しい程、的確だったのです。練習を積み上げ、心を込めた本番だった...しかし全部わかってしまう本番。私の驚きは、乾杯の美酒と先生のブログへの書き込みとアンケートの束。出直した! 次に繋げる為に! 偶然、出くわした、神楽坂のお神輿...忘れない。有難うございました。

「ショコラ」が私の合唱団初体験だしホールコンサートで歌うのも初めて。本番当日の朝もトイレで暗譜の練習。外は大降りの雨。客の入りは期待できない。テンションが揚がらないこと甚だしい。よし、合宿の積もりで歌おう。結果は...ま、こんなものだろう。やっぱり本番は参加したほうが面白い。雨の中を来てくださった友人をはじめお客さまに感謝。新都心には盛り上げてもらった。でも毎回頼るわけにはいかない。助っ人なしでやる覚悟が必要だろう。四苦八苦した暗譜も最初から覚悟をしまえば先生を恨まず(?)にすむ。今回は準備段階から盛上るような満を持したコンサートだといいたいのだが。

佐々木三葉子(アルト)

国語の教科書で習って以来の「啄木」。音とりにも苦勞したが次第に廣瀬さんの美しい音楽に引き込まれ啄木の世界に親しむことができた。木下さんのアカペラ作品は親しみやすい詩が題材なので、和音にぴったりはまって歌えた時はとても心地よく幸せを感じ、『よく聴き合って』の練習で本番では音程の揺らぎが少なめでよかった。「ひばり作品集」は各パートにメロディがちりばめられて伸び伸びと歌うことができた。そして友情出演して下さった「新都心」の皆さんのアニソンはとても懐かしく、個性溢れるソロも入り楽しませてくれた。お客様、応援して下さいました皆さんに感謝!

景山 洋一(バス)

今回は暗譜というハードルの高い挑戦で、毎日猛練習をしてギリギリ演奏会に間に合いました。本番は緊張しましたが、やることはやったという自信で落ち着いて歌え、常日頃神尾先生がおっしゃっている暗譜の素晴らしさを実感しました。

指揮者をじっと見ていると情熱が伝わってきて、時々記憶が途切れがちだった音の強弱や盛り上がりも自然と出て来て、指揮者と合唱団の一体感のある歌を歌えたのではないかと嬉しくなりました。しかし、やっと何とか歌えたというのが本音で、楽しい合唱になるにはまだまだ道のりは長いと思いました。

佐々木 晋(テナー)

演奏会の舞台に立ってみると、進歩した部分とまだ足りない部分がよく見えてきます。アマチュアとは言え舞台は真剣勝負、だからこそ普段の練習で気付かないことを歌いながら自覚したり、知人の指摘やアンケートで気付かされたりします。足りない部分は進歩の種、素直に受け止めてその種を育てれば次回はもっと上手になれる。たくさん落ちていた種を拾って自分で育てるだけでなく、皆で協力して育てていきたいものです。

古川 智久(バス)

演奏会お疲れ様でした。今回は暗譜で、なおかつホール演奏だったということで、ショコラとしては今までにない経験ができたと感じています。練習ではできたけれど本番でうまくいかなかったこともあれば、その逆のこともあったと思いますが、本番だけうまくできた部分については、普段の練習でも本番くらいに集中して歌えれば身につけられることも多いと思います。演奏会直前だけでなく、普段から歌に真剣にむきあって、次回はさらに良い演奏ができるよう頑張っていきたいと思います!

伊藤 希男(テナー)

リハーサルで「?」がうまくいきませんでした。暗譜(というより歌詞の暗記)への不安が消えないまま2ステージ目がはじまりました。

1曲目の「サッカーによせて」を乗りきると、曲が進むにつれて先生、客席、メンバーの横顔がいつもより目に入ります。楽譜を見ながらとは違った歌がそこにあっつて、これまでは違った気持ちで歌に入っています。そして、歌詞の暗記への不安は忘れてしまっています。

4ステージ、もはや私は美空ひばりです。そして、お客様に歌を届けているのです。

山田 武雄(テナー)

最後の練習の時にまだまだ暗譜が不完全。自慢じゃないが、あっしはジタバタするのが嫌いでねえ。できねえコトはさっさと諦める...できるコトを気分よくやる...そうやって(?)十年も生きてきたんですよ。ところが、本番直前にいただいたChocolat通信には「一夜漬けてもあきらめずに」という佐々木団長の檄が。そうだ、あっしにもショコラの一員としての責任がある! やりましたよ、多分生まれて初めての一夜漬。やればできるじゃないかと臨んだ本番の後の控室。「後ろの誰か、間違ってた!」だって。それってあっしのこと? トホホ...。ごめん。次は一夜漬でなく頑張るから。

田川 雄一(バス)

なるほど暗譜ができていなかったのはこれはもう明らかに歌い込みが足りなかったからでつまり練習してなかったわけですとどんなに楽譜を睨み続けても覚えられやしないものだから本番の前日数日前にあわてて一人カラオケで練習という体たらくはまったく何をしていたのかとは言い条演奏会の日はやってくるのでともかくにも暗譜をして歌ったわけだけどしかしそいつぁ歌詞を音に乗せただけじゃねえかそういうのは暗譜たぁ言わねえぜ坊主おめえさんは演奏会にヒトカラしに来たってのかい呑気なもんだねえ。僕は合唱団にいるのでした。



編集後記 2012.10.18

ショコラは初めの頃人数が増えない悩みもあったが、その後いろんな個性を持った方の出入りもあり周りの合唱団の方にも応援をいただきながらホールでのコンサートを行なえるまでに成長した。これは神尾先生が根気強くご指導下さったおかげで、歌に対する真摯さやどのように歌うかをいつもわかりやすく表現して下さい。自己満足に終わらせず、目標を持ち向きあうことの大事さ。何よりも歌うことが楽しい、と思えることに感謝したい。(三葉)

「むしの音コンサート」特集号、いかがでしたか。原稿をお寄せいただいた方、ありがとうございました。(Kobo)